



とくていひ えいりかつどうほうじん
特定非営利活動法人

じりつしえん
自立支援センター

おおいた



『平成19年度ユニバーサルデザインの
まちづくりワークショップ』事業報告！



だい 第 14 号 発行年月日:2008年2月8日(金)
はつ 発行元:特定非営利活動法人
じりつしえん 自立支援センターおおいた
へんしゅうたんとうしゃ 編集担当者:若杉 竜也

大分県民の方々のユニバーサルデザイン(以下UD)についての意識啓発を目的として、昨年に引き続き「ユニバーサルデザインのまちづくりワークショップ」を今年度も開催しました。

7月22日(土)に国東市にあります大分空港2Fレセプションルームを中心に開催し、11月3日(土)には、白田市の大分県白田総合庁舎3F会議室、12月8日(土)には、佐伯市の佐伯市保健総合センター「和楽」第一研修室を主会場として行いました。

ワークショップの大きな内容としては、パワーポイントを用いたUDについての学習や高齢者疑似体験、妊婦体験、視覚障がい者疑似体験、車椅子体験を通してUDについて考えるまち歩き、その後のワークショップ内で疑似体験やその介助を通して気づいたことや感じたこと、また、日頃の生活の中でUDについて思っていること等を班毎に自由に意見交換して頂き、最後に各班内で意見を集約し、意見発表を行いました。

3回のワークショップすべて晴天に恵まれ、トラブルもなく、無事に開催することが出来ました。今年度は残念ながら外国人の方々の参加人数が少なかったのですが、行政職員、建築関係者、障がい当事者や高齢者、小学生やその親御さん等、多くの方が集まり様々な意見が飛び交ったワークショップの意見交換の場では、施設整備の不備に関する意見が噴出したことは勿論、例えUDの考えで整備された施設でも、それを利用する人達が利用する人達の立場になって考え行動しなければ何もならない。これからの社会の中では、施設のUD化は当たり前のことではあるが、「すべての人が利用できる施設というのは難しいので、その時には、人がどう関わられるのか、人の心のUD化も施設整備同様、とても重要なことである」ということが、どのワークショップに於いても共通の意識として共有できたことは、とても意義のあるワークショップとなったと感じており、参加者の皆さんも、UDについて多くの気づきや考えや思いが生まれる良い機会となったようでした。

このようなワークショップがこれからも県下各地で開催されることにより、皆さんのUDに関する意識が向上すると共に社会基盤整備が進み誰もが安心して暮らし訪れることができる大分になることを切に望みます。

最後に、参加していただいた皆様には大変、感謝しております。またこのような機会がありましたらご協力よろしく願います。

ワークショップの様子



記事担当 若杉 竜也

『平成19年度全国都市再生モデル調査』事業中間報告！

自立支援法が施行され、障がいのある方々を住み慣れた地域へという共生社会（ノーマライゼーション）の実現という理念の下、当センターでは、現在も様々な社会福祉活動を行っていますが、平成19年9月より平成19年度全国都市再生モデル調査「高齢者、障がい者等の生活を促進させる為の住宅調査及びユニバーサルデザインの普及活動」事業（本事業は、首相官邸に設置されました内閣官房都市再生本部（担当課；国土交通省住宅局住宅総合整備課 環境整備室）より委託を受け行っております。）を行ってきました。事業最終報告は平成20年3月ですので、ここでは中間報告を致します。

実施期間	平成19年9月3日～平成20年3月21日
事業目的	ハートビル法で建築物が整備され、高齢者、障がい者等の社会参加が促進されるようになったものの、大分県においては、ユニバーサルデザイン環境の整った住宅数が少ないのが現状である。そこで、ユニバーサルデザインの住宅構築に向けての調査、情報提供、普及啓発活動等を行い、地域住民の協力体制や様々な団体とのネットワークを確立し、より安心して地域生活を送れるような社会を実現する事を目的とする。
事業内容	(1)ユニバーサルデザイン住宅の検索サイトの構築 (2)ユニバーサルデザインの普及啓発活動 (ワークショップ全10回開催) (3)報告会(賃貸住宅シンポジウム)

『ワークショップ開催のご報告』



エキサイティングな意見交換です！



ちょっと高いかなあ～？

平成19年9月15日～11月29日の間で、大分市・別府市内に於きまして全10回の「ユニバーサルデザイン住宅調査ワークショップ」を開催致しました。参加者は、障がい当事者、行政職員、不動産会社・建築会社、メーカー(TOTO)、技術者、その他(有識者、マスコミ等で、延べ189名の方々に参加して頂きました。

内容としては、車椅子利用者が居住しバリアフリーの改造を施している賃貸住宅の見学をしながら参加者のみなさんとユニバーサルデザイン(UD)やバリアフリー住宅についての学習を行い、その後、大分のUDやバリアフリーの賃貸住宅の現状やこれからの取組み等の意見交換を行いました。

参加者の皆さんは、住宅に関するスペシャリストの方々が多かったのですが、車椅子利用者の住宅を見たことが無い人が多く、どなたからも、新しい発見や様々な気づきのある貴重且つ充実した経験となったというお声を頂きました。

また、意見交換の場では、「(住宅見学をして)どこまでをUDにすればいいのか?」「高齢者(単身・夫婦世帯のみ)、障がい者の入居を嫌がる大家さんが多い。(車椅子だと傷が付く。知的や精神障がいのある人は問題を起すので困る。等々)」「車椅子利用者優先の公営住宅だが、電動車椅子では、居室まで入れない等、計画的な不備がある」「高齢者優良賃貸住宅制度があるが大分に於いては、実績がゼロである」「不動産会社や建築会社の方々は、まだまだ、バリアフリーやUDに関する知識が乏しい方が多い」等々・・・、ここでは書ききれない程、色々な意見が飛び出してきました。

これら全10回のワークショップだけでも様々な問題点や課題が浮き彫りになってきたのですが、私たちがこれから取り組まなければならない事柄の方向性の一端としては、「車椅子を使用する方や知的・精神障がいのある方が、民間の賃貸住宅を借りる際や賃借後、オーナーさんや大家さんや借り手側の抱く様々な不安や問題を解消する為の公的な後見システム作り」「【地域優良賃貸住宅制度】に関する県及び各市町村の具体的な取組みについて」「ワークショップの啓発の成果として、UDによる賃貸住宅を建築や改築したいという声が上がっており、具体的な実施へとどう繋げるか」「公営住宅建て替えや改築計画への当事者の参画」等々・・・が上げられています。

(全ては、最終報告書にてお伝え致します)

賃貸住宅検索ポータルサイト『ユニバーサルハウス』の情報提供サービス開始！

当センターでは、足の不自由な高齢者、障がいのある方が、容易に物件を探せるお手伝いが出来ればと考え、ユニバーサルデザイン住宅(バリアフリー住宅、改造許可物件含む)の物件情報を掲載するポータルサイト「ユニバーサルハウス」を構築致しました。

現在、ユニバーサルデザインやバリアフリー、大家さんが原状回復等の条件付きで改造を許可している物件情報を募集・掲載中です！

詳しくは、<http://www.jp700.com/>まで、今すぐアクセスを！



これが噂のユニバーサルハウスだあ～

第18回フィールドトリップ 「夜に別府の街で交流会」

10月27日(土)に、16:00~21:00の時間で、第18回フィールドトリップ「夜に別府の街で交流会」が開催されました。今回は、参加者とスタッフを含めた15名の参加となりました。まだ日が明るい16:00に別府竹瓦温泉前に集合し、開会挨拶・当日の内容・参加者の自己紹介を行いました。その後、参加者・スタッフをA班・B班・C班の3班のグループに分かれて頂き、前もってあみだくじ形式で用意されていた料理の項目カードを選んで頂き、A班は肉まん、B班はから揚げ、C班は餃子となりました。この企画のルールとして必ず選んだ料理を食べ、更に別府駅前周辺の各ポイント5箇所にて記念撮影をしてもらうといった別府ねり歩き料理堪能企画を行いました。スタッフがおすすめしていた店を回る班、ねり歩きの最中に立ち寄ったコンビニで買う班などそれぞれに班で考えながら、別府の味に舌鼓を打っていました。また、各ポイントでの記念撮影では歩いている人や店の人に声を掛けて撮影してもらうなど、各班悪戦苦闘しながら撮影されていました。

その後、竹瓦温泉前に戻ってきた各班は、竹瓦温泉斜前にあるヒットパレードクラブでお酒を交えての交流会を行いました。ヒットパレードクラブでは1時間に1回ステージでバンドのメンバーが演奏するオールディーズな楽曲の生演奏を聞いたり、演奏の合間には席替えを行いながら、参加者、スタッフ全員がゆっくりした時間の中で話しをする事の出来た、楽しい交流会となりました。参加された方からは「夕方からの開催で参加者のみなさんとゆっくり話す事が出来た」という声が聞かれました。みなさんからのご意見を踏まえながら、これからもみなさんに喜んで頂ける様な企画を考えていきます。参加されたみなさんありがとうございました。

記事担当：首藤 健太



開会式の様子



ヒットパレードーズ演奏中



交流会の様子

《フィールドトリップに参加した皆さん》



竹瓦温泉にて(A班)



駅前高等温泉にて(B班)



別府駅前広場にて(C班)

車いすマーク駐車場適正利用キャンペーン開催

当センターでは昨年10月から12月末にかけて、大分県より委託された「車いすマーク駐車場適正利用キャンペーン」事業を別府、大分の各地で行いました。現在、様々な場所で目にするようになった車いすマーク駐車場ですが、障がいのない方が車いすマーク駐車場に車を停めている為、本当に利用したい方、つまり車いすを利用されている方が停められないという事が最近増えてきている事から、キャンペーンを通じて障がいのない方の駐車をなくすことはもちろん、車を運転する方々の意識を変えていき、障がいのある方が安心して外出することができ、障がいのない方が車いすマーク駐車場に車を停めない大分県を目指し、このキャンペーンを行う事になりました。

さて、車いすマーク駐車場はなぜ通常の駐車スペースより広いのでしょうか？それは、車いすを使用する方は車に乗り降りする際にドアを全開にしないと移動できないため、通常よりスペースを広く取っているわけです。

キャンペーンの内容としては、大分県の作成した啓発用チラシを配布しながら車いすマーク駐車場の利用実態や現状を説明、キャンペーンの趣旨に賛同し署名にご協力いただいた方にリーフレットやステッカーをお配りするといった物でした。ステッカーには国体PR用の「めじろん」のロゴマークも使用しており、子供さん達にも評判が良かったようです。

第一回目は10月20・21日の2日間、別府公園にて開催された「大分県農林水産祭」においてブースを設けてキャンペーンを行いました。大分県のイベントの中でも大きな部類に入るものの1つとあって、県内だけでなく県外からも来場者があったようです。両日とも天気に恵まれ、汗ばむ陽気の中での署名活動でしたが、2日間で1,300人以上の方々から署名を集める事が出来ました。続いて第二回目、12月1日、大分市のオアシス21・アトリウムプラザにおいて開催された「人権啓発フェスティバル」でイベントの一環としてブースを出させて頂きました。この日は風が冷たく、参加したスタッフも凍えながらの活動でした。配布していたチラシにスタンプラリーの答えが掲載されていた為か、みなさんの反応もさほど悪くなく署名の数も少しずつ増えていき、最終的には160人以上の署名を集める事が出来ました。そして第三回目、12月15日、大分市のトキハわさだタウン・フェスタ前広場展示場において、最後のキャンペーンを行いました。ここでのキャンペーンはかなり苦戦しました。前回までと違って、気温も低く、風も冷たい中、買い物目的のお客さん達に足を止めてもらうだけでも一苦労だったし、最初は説明を聞いてもらうだけで精一杯の部分もありました。それでも何とか200人以上の署名を集める事が出来ました。

キャンペーン中、多くのボランティアの方にお手伝いいただいたり、署名中に激励の言葉をいただいたり本当にたくさんの方々やと触れ合う事ができ、計画の段階では600人の署名を集めるのが目標でしたが、皆さんの協力のおかげでそれを大幅に上回る1,700人近い署名を集める事が出来ました。

今年は大分で国体も開催されます。今回のキャンペーンを通じて車いすマーク駐車場の必要性を理解していただければ嬉しいですし、国体を機会に皆さんの優しさと思いやりを全国の皆さんにアピール出来ればと思います。

記事担当：福田 浩範



『キャンペーン当日の様子』

2007.12.01(土)開催 人権フェスティバル「ヒューマンフェスタ2007」
新体験！障がい者の笑顔と元気に逢える-人権ワークショップ

12月1日(土)にiichiko総合文化センターにて、人権フェスティバル「ヒューマンフェスタ2007」新体験！障がい者の笑顔と元気に逢える人権ワークショップが開催されました。

開催の内容としては、13:20からの首藤健太さん(NPO法人自立支援センターおおいた)より「私にとっての自立生活」というテーマで講演され、養護学校時代どうしても大学に進学したいといった時、「本当にいくの」といった反応があった。それまでは養護学校を出たらそのまま在宅へという流れが定着しており、進学というのは予想外という考えだったそうです。

しかし、自分の夢と意志、また沢山の方々の協力で大学にいき様々な活動をふまえて現在充実した日々を送られていると話をされ、最後に「元々決まっている事をやるのは簡単だけど本当にやりたい事ならば挑戦していく事も大事」と話をされました。講演を聞いて参加者の方から障がいを持ちたくて持ったわけではなく悔しいと思った事はありますかという質問に、首藤さんより僕も障がいを持って生まれたかったわけでも無いし両親も障がいを持った子供を初めから望んだわけでもないだろうし、しかし私はこの世の中に生まれた、生んでもらえた事を感謝していると話をされていました。

14:45からは、安富秀和氏講演(NPO法人自立支援センターおおいた)より「障がいをのり越えて」というテーマで講演され、17歳の時バイクで交通事故にあい頸椎を損傷車椅子の生活に、そして現在に至るまでの困難やこれからの夢などを話されました。最後にワークショップを通しての感想を皆で話し合い終了をむかえました。

記事担当：安富 秀和



時間	内容
13:00	開催挨拶
13:05	開催説明・自己紹介
13:20	首藤健太氏講演「私にとっての自立生活」
13:50	首藤健太氏の講演の感想や参加者の方々の体験等を通しての意見交換会
14:30	休憩
14:45	安富秀和氏講演「障がいをのり越えて」
15:15	ピアカウンセリングってなあに？
15:45	ワークショップを通しての意見交換
15:55	閉会挨拶
16:00	終了

首藤健太
大分県出身(23歳)
- 活動内容 -
平成 15年 01月
大分市坂/市 障害児の為の夏季休暇余暇支援事業でのボランティア活動
平成 15年 11月
大分トリニータ後援会大分東支部副支部長 就任
平成 16年 02月
人権授業における講師(中津市立本耶馬溪小学校)
平成 16年 08月
地域支援センターほっと内「ほっとクラブ」でのボランティア活動
平成 16年 12月
人権授業における講師(中津市立津房小学校)
平成 17年 08月
社会福祉士受験資格取得の為の実習(大分市役所)
平成 17年 09月
社会福祉士受験資格取得の為の実習(別府発達医療センター内、地域支援センターほっと)
平成 17年 10月
社会人フットサルチーム監督 就任
平成 17年 11月
人権授業における講師(中津市立柿坂小学校)
平成 18年 03月
学外ボランティア、福祉実習に向けての授業における講師(大分県立安心院高校)
平成 18年 11月
進路指導の為の講師(大分県立別府養護学校)平成 19年 7月
平成 19年度ユニバーサルデザインのまちづくりワークショップ(大分空港)担当として参加
平成 19年 09月
平成 19年度全国都市再生モデル調査ワークショップ担当として参加(全 3回)
平成 19年 11月
平成 19年度全国都市再生モデル調査ワークショップ担当として参加(全 10回)

安富秀和
宮崎県出身(31歳)
- 活動内容 -
平成 11年 07月 宮崎県青少年の主張西諸地区大会最優秀賞受賞
平成 11年 08月 宮崎県青少年の主張宮崎県大会最優秀賞受賞
平成 12年 09月 トールベント はな工房を設立
平成 12年 10月 宮崎県都市立沖水小学校 「講演・トルベント教室」
平成 12年 11月 宮崎県都市立祝吉小学校 「講演・トルベント教室」
平成 12年 12月 宮崎県都市立祝吉中学校 「講演・トルベント教室」
平成 13年 11月 宮崎県都市立祝吉中学校 「講演・トルベント教室」
平成 14年 03月 宮崎県小林市幸ヶ丘小学校 「講演・トルベント教室」
平成 14年 03月 宮崎県延岡市めひかり飲酒運転追放市民大会講演
平成 14年 06月 宮崎県小林市立南小学校 「講演・トルベント教室」
平成 14年 08月 宮崎県小林市西諸学園 「講演・トルベント教室」
平成 14年 08月 宮崎県小林市幸ヶ丘小学校 「講演・トルベント教室」
平成 14年 09月 宮崎県えびの市真幸小学校 「講演・トルベント教室」
平成 14年 11月 宮崎県都市立祝吉中学校 「講演・トルベント教室」
平成 15年 02月 宮崎県えびの市加久藤中学校 「講演・トルベント教室」
平成 15年 06月 宮崎県都城西中学校 「講演・トルベント教室」
平成 15年 09月 宮崎県小林市西諸学園 「講演・トルベント教室」
平成 15年 05月 宮崎県小林市小林中学校 「講演・トルベント教室」
平成 15年 07月 宮崎県都市立北小学校 「講演・トルベント教室」
平成 16年 08月 宮崎県野尻町友愛会館 「講演・トルベント教室」
平成 17年 03月 宮崎県都市立高城中学校 「講演・トルベント教室」
平成 17年 12月 宮崎県小林市西諸学園 「講演・トルベント教室」
平成 17年 12月 宮崎県野尻町立野尻中学校 「講演」
平成 18年 02月 大分県国東町立来浦小学校 「講演・障害者疑似体験教室」
平成 18年 05月 大分県別府大学 「講演」
平成 18年 07月 大分県別府北小学校 「講演」
平成 18年 11月 高齢者・障害者の支援に関する拡大鏡議会パネラー

泉都別府ツーリズム支援事業

「バリアフリー調査とホームページと携帯電話ホームページによる情報公開」

別府市まちづくり事業の一環である、泉都別府ツーリズム支援事業においてNPO法人自立支援センターおおいたでは下表の日程で「バリアフリー調査とホームページと携帯電話ホームページによる情報公開」事業を行いました。一昨年まで4ケ年に渡り行われてきました、「泉都別府まちづくり支援事業」からの継続事業で本年度も別府市においてのバリアフリーの町づくり活動に反映していきたいと考え「バリアフリーのまち・安心して楽しめるまち別府」をテーマに事業実施してきました。

本年度の事業内容は、8月に公共施設バリアフリー調査として「別府競輪場」へ調査に伺いました。別府競輪場は、新しく開設されたこともあり施設全体素晴らしい設備へと変わっていました。その中でも高齢者から障がい者まで安心して利用できる様配慮された「バリアフリーキャップルーム」が造られていました。また車券を購入する場所も高齢者から障がい者まで安心して利用できる様配慮されてありました。(右記の写真)

身障者トイレは1Fと3Fに設置されており、誰もが利用できるような造りとなっていました。全体的に見て、身障者・高齢者にとってすごく優しい設備だなと感じました、是非一度行ってみては。まあ、勝つか負けるかはその人の運しだいですけどね。



9月には、事業の一環である飲食店バリアフリー調査として、「大和田鮨」と「いけす割烹・平家」に調査に行きました。まず「大和田鮨」に行き、店内に設置されてあります身障者トイレを調査させていただきました。調査をしながら、店の方にお話を聞きました。お話によると最初は身障者トイレがなく、設置されたきっかけとして、車椅子の方がよく来てすぐ帰られていたそうで理由を伺った所、「トイレに行かないといけないので」とそれを聞いた大将が身障者の方でもすぐにトイレに行けるようにとの配慮から設置されたという事でした。(右上記写真)

次に「いけす割烹・平家」へ行きました。

いけす割烹・平家は店内には大きいいけすがあり、いけすの中には関アジ・関さば・季節の数十種類の魚が泳いでいて、魚を眺めながらのお食事が最高ではないかと思えます。(右下記写真)

もちろん身障者トイレもありますし、店内は車椅子の方でも十分広いスペースが確保されているのではないかと思います。



今回調査した情報をもとに、ハンディキャップのある方が、観光・公共施設、飲食店に訪れる際、安心して楽しめるための情報提供・今回新たな試みとして携帯電話での情報提供も同時に出来ればと考え事業を行ってきました。本年度の事業は終了しましたが、今後更に情報を充実できる様当センターではバリアフリー調査等の活動を行っていききたいと思います。

今回、当センターで行った「泉都別府ツーリズム支援事業 バリアフリー調査とホームページと携帯電話ホームページによる情報公開」事業の内容はホームページにより公開しております。

・HPアドレス <http://www.coara.or.jp/~yoneyura/jiritusien/19sento/index.htm>

・携帯電話URL <http://www.jp999.com/keitai/>

記事担当：五反田法行

2級ヘルパー要請講座開講のお知らせ

NPO法人自立支援センターおおいたでは、2008年1月より2級ヘルパー要請講座を開講致しました。近年では、福祉の現場で働く介護職員の不足がさげばれています。この現状を多くの方々知ってもらおうべく、介護の必要性、やりがい、楽しさを伝え、こからの福祉の担い手、助けになっていただける方の育成を行っていきたくと考へ開講にいたりしました。

講座の内容も当センター独自のカリキュラムを設け短期間で資格取得を目指すことが出来、受講費用も通常の講座よりも格安に設定しました。また、留学生や外国人の方でも日常会話や日本語を読み書きすることが出来れば受講することが出来ます。

是非ともこの機会に2級ヘルパー資格を取得し、これからの福祉、介護を担っていただける方が増えていただけることを期待しております。受講期間等の詳細につきましては、お気軽にお問い合わせください。

1月19日より既に第一期の講座が始まっております。第二期開講は現在検討中ですのでお問い合わせください。

受講内容

受講料	49,800円
受講期間	40日間
受講対象	学歴、経験、国籍に関係なくどなたでも受講出来ます。

受講のカリキュラム

レポート提出	約10日に1度の提出 x 4回	自宅にて出来ます。
実技講習	約3週間	会場にて講師の先生より実技に関する講習を行います。
実習	6日間	実際の施設や福祉の現場で実習を行います。

(時間帯は現在「月～金18:00～20:00、土9:30～17:30」に実技講習を行っております。)

受講後、当センターにて勤務していただける方については、受講料(テキスト代込み)を一時、当センターが負担し、給与からの補填払いも可能です。尚、こちらに関しましては事前の面接が必要となります。

あなたに「ありがとう」を言いたい人が待っています

介護ヘルパー募集

NPO法人自立支援センターおおいたでは、現場で働くヘルパーを募集しております。資格をお持ちでやる気のある方、福祉のお仕事をしてみたいという方、是非ご連絡下さい。

事業所名：NPO法人自立支援センターおおいた 求人職種：ホームヘルパー 就業場所：別府市・大分市在住の利用者宅 雇用形態：正社員、登録ヘルパー 採用人数：正社員(若干名)登録(随時募集) 年齢：不問 学歴：高卒以上 必要な経験等：不問 必要な免許資格：ホームヘルパー2級以上・介護福祉士 准正看護師のいずれか、普通免許 就業時間：時間帯はご相談下さい 賃金：1,000円～1,500円(時給)



これから自立支援センターおおいたや自立生活センターおおいた
 では、楽しい催し物をぞくぞくと行っていきますので、ご家族・ご
 友人をお誘いの上、皆さんふるってご参加下さい。詳細は、1ヶ月前
 にチラシや市報などによりお知らせ致します。
 (催し物や日程は都合により変更の場合がございますので予めご
 了承下さい。)

《今後の予定》

日	程
平成19年度全国都市再生モデル調査シンポジウム	2月9日(土)
防災フォーラム「障がい者の防災を考える」	3月8日(土)
お花見交流会	4月5日(土)
ツインバスケットボール交流会	6月14日(土)
ピア・カウンセリング公開講座	7月12日(土)
お祭り参加企画を検討中	8月(予定)

編集後記

新年明けましておめでとうございます。
 大変遅くなってしまいましたが、今年もスタッフ一同宜しくお願い致します。前号から間隔が空いてしまいましたがセンター新聞第14号の完成です。
 昨年当センターにとって決して忘れる事のできない1年となってしまいました。私達は昨年の出来事の全てを全力で受け止め今後の人生、そして業務に活かしていきたいと考えております。また、これからの活動を通じて社会に何かを伝えていけるよう努力していきますのでご協力をお願い致します。
 さて、本格的に寒くなってきましたが皆さん風邪などひいていませんか？寒い夜はゆっくりお風呂に入って、温かい鍋料理なんて如何でしょう？しっかり栄養を取ってこの冬を乗り切りましょう！！

編集後記担当：福田 浩範

主なサービスは次の通りです。

- 訪問介助サービス
- ピア・カウンセリング
- 自立生活プログラム
- 福祉各種無料相談
- 自立生活・バリアフリーセミナー
- バリアフリーコンサルタント

(ユニバーサルデザイン)

特定非営利活動法人 自立支援センターおおいた
 〒874-0942
 大分県別府市千代町13-14 エバ-サマンション 2F
 TEL: 0977-27-5508
 FAX: 0977-24-4924
 E-mail: 333@jp114.com
 URL: <http://www.jp999.com/333/>

私達は利用者主体の介助サービスを提供しています